

京都市学校事務職員の資質の向上に関する指標

学校事務職員としての素養	京都市の学校事務職員としての自覚や使命感	<ul style="list-style-type: none"> ○「一人一人の子どもを徹底的に大切に」教育理念のもと、子どもに対する教育的愛情と職に対する使命感や情熱がある。 ○本市教育の目指すべき方向について理解し、その実現に向けた教育活動を推進できる。 ○確かな人権感覚をもち、一人一人の個性・特性や多様な価値観を尊重した教育活動を推進できる。 ○法令を遵守し、誠実かつ公正に職務を遂行するとともに、学校で働く公務員としての役割や使命を自覚し、子どもや保護者・地域等との信頼関係を構築することができる。 ○学校事務職員としての専門性を高め、社会の変化に応じた広い視野と向上心をもって常に学び続けることができる。 ○子どもの命を守りきる教育活動・学校経営の徹底に向け、安全管理・危機管理に対する自身の意識を高めるとともに組織的な取組を進めることができる。
	連携・協働する力	<ul style="list-style-type: none"> ○自身や学校の強み・弱みを客観的に捉えて理解し、教職員をはじめ他者との連携・協働のもと課題を解決しようとする姿勢を身に付けている。 ○常に謙虚に学ぶ姿勢をもち、多様な考え方を柔軟に受け入れ、周囲と円滑なコミュニケーションを取り良好な人間関係を構築することができる。 ○視座を動かして物事の本質を捉えたり他者の立場を理解し、多様な人材が活躍する職場づくりや、互いを思いやり高め合う組織文化を醸成できる。 ○学校唯一の行政職として、学校教育・学校事務や関係法令、ICT等についての知識を積極的に身に付け、校務運営に生かすことができる。

キャリアステージ	ステージⅠ	ステージⅡ	ステージⅢ	ステージⅣ	
経験年数・職位	学校事務職員(1~3年目)	学校事務職員(4~10年目)	11年目以上もしくは学校運営主任	学校運営主査	
あ る べ き 姿	<p>○学校園経営方針やビジョンの実現に向けて、専門性を生かして職務に取り組み、管理職を補佐しながら学校を支える存在となる。</p> <p>○最新の教育動向やICT技術等学校教育に関する知識を率先して学び、知見を生かして学校を支える存在となる。</p>				
	学校事務職員の役割を果たすためのありべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの職責を理解し、事務職員としての基礎・基本の定着を図る。 ○他の教職員と協調し教育活動の充実推進等、校務運営参画の基礎を築く。 ○組織の一員として、自らの役割を意識し、主体的に行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事務職員としての専門性を高めるとともに実務力の向上を図る。 ○他の教職員と連携・協働のもと校務運営に積極的に参画し、教育活動の充実を図る。 ○組織の目標達成へ向け、主体的に行動するとともに、リーダーを補佐する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○知識や経験を生かして的確に職務を遂行し、管理職を補佐する。 ○校務運営に積極的に参画し教育活動の充実を図るとともに活性化に取り組む。 ○組織の円滑な運営に向け、自校及び近隣校園の事務職員の人材育成の取組に積極的に参画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高度な知識や豊富な経験を生かして管理職を補佐する。 ○学校の中核的存在として教育活動の充実、推進や学校経営の高度化を図る。 ○組織のリーダーとして全市的な視野に立ち、自校及び近隣校園の事務の進捗状況把握し、事務職員の人材育成を担う。
	校内での役割	教職員の一員として校務運営に参画する	専門性を生かし校務運営に積極的に参画する	管理職を補佐し学校経営を推進する	管理職を補佐し学校経営の柱となる
	学校間連携での役割	メンバーの一員としてブロック運営に参画する	経験や知識を活かしブロック運営の活性化に取り組む	主体的にブロックを運営し人材育成に努める	ブロックを統括しブロック運営の充実および人材育成を担う
	各ステージで重点的に高めたい力	正確な事務処理能力 計画的に業務を進める力 情報を収集する力	情報を分析・活用する力 分かりやすく説明する力	企画・提案する力 行動し、実現する力	目標達成に向けたマネジメント力 リーダーとしての統率力

具 体 的 行 動 指 針	学校事務職員の専門的な職務	<p>○管理職や関係者への報告・連絡・相談のもと、適切に判断し、計画的に業務を遂行することができる。</p> <p>学校事務全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○法令や関係規則を正しく理解し遵守するとともに、学校事務の基礎的・基本的な知識を身に付け、自身の担当業務を確実に行うことができる。 ○学校事務全般について確実な知識を身に付け、実情に応じて工夫改善を行い、校内事務の効率化・適正化に努めることができる。 ○学校事務全般にかかわる確実な知識や経験を生かし、効率的・効果的で適正な校内事務体制の構築に努めることができる。 ○学校事務全般にかかわる豊富な知識や経験を生かし、円滑な校内体制に向けた提案や改善を行い、事務部門の向上を進めることができる。 <p>予算執行・物品管理等にあたって</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見通しを持って適切な管理を行うとともに、財務諸制度について学び、ICTの活用や教育資源の調達及び有効活用等に努めることができる。 ○見通しを持って適切な管理を行うとともに、財務諸制度を活用し、ICTの活用や教育資源の拡充及び有効活用等を図ることができる。 ○効率的・効果的な管理を行うとともに、財務諸制度の活用やカリキュラムを意識したICT活用、教育資源の拡充及び有効活用等に取り組むことができる。 ○効率的・効果的な管理を行うとともに、財務諸制度を活用しカリキュラムを意識したICT活用、教育資源の拡充及び有効活用等を推進することができる。 <p>文書事務等を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報の収集及び適切な管理を行い、他者と必要な情報の共有化を図ることができる。 ○積極的な情報の収集及び分析・活用を行い、他者への適切な情報提供ができる。 ○学校全体で効果的な情報の収集及び活用する体制を支えることができる。 ○最新の教育動向やICT技術等幅広い情報の収集及び活用を行い、効果的な情報活用体制を構築することができる。 			
	財務を基軸とした校務運営参画	<p>○教職員・保護者・地域等に対し、学校財務に関して周知理解を図ることができる。</p> <p>○学校経営ビジョン(学校教育目標)の実現に向け、学校経理の日や予算委員会等を通して、管理職・教職員と連携・協働を図ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育活動の効果高める予算運営を目指し、校内の調整及び点検・評価を繰り返すマネジメントサイクルの構築に努めることができる。 ○事業予算等も活用しながら教育活動の効果高める予算運営に取り組み、校内の調整及び点検・評価を繰り返すマネジメントサイクルの構築を図ることができる。 ○校内外の教育資源を活用しながら教育活動の効果高める予算運営に取り組み、校内の調整及び点検・評価を繰り返すマネジメントサイクルを実行することができる。 ○校内外の教育資源の活用や事業の進行管理等、教育活動の効果高める予算運営に取り組み、校内の調整及び点検・評価を繰り返すマネジメントサイクルを確立することができる。 			
	組織運営への参画や他者との連携・協働	<p>○企画運営委員会・職員会議等に参画し、学校事務職員の立場から学校教育活動を推進することができる。</p> <p>○全ての子どもたちの学びを保障するため、児童生徒支援等について理解を深め、教職員とともに取組を進めることができる。</p>			
		学校の組織運営に関して			
		○自身の担当業務の情報提供及び内容の説明ができる。	○専門性を生かした意見及び助言ができる。	○専門性を生かして課題解決に向けての働きかけができる。	○学校全体を俯瞰し、専門性を生かして方針や計画等の策定に参画できる。
		業務改善に向けて			
		○学校事務の効率化・省力化を見据えて、ICT等最新技術の知識を身に付けることができる。	○校内の実情を鑑みながら学校事務の効率化・省力化に努めることができる。	○学校事務の効率化・省力化に取り組み、校内の事務経量の削減に努めることができる。	○学校事務の効率化・省力化に取り組み、全市的な視野で事務経量の削減に取り組むことができる。
		教育活動の推進・充実に関して			
		○学校の教育内容・教育課題や児童生徒の状況を理解し、行事の準備・運営、ICTの活用支援、児童生徒支援等の教育活動を支える一員となることができる。	○行事の準備・運営、ICTの活用支援、児童生徒支援等の教育活動について、積極的に参画することができる。	○行事の準備・運営、ICTの活用支援、児童生徒支援等の教育活動について、計画段階から参画し、推進・充実を図ることができる。	○学校全体の校務運営に参画し、高度な知識と豊富な経験を活かして、学校教育力の向上に寄与することができる。
		学校組織の一員として			
○保護者・地域・関係機関との信頼関係の構築に努めることができる。	○保護者・地域・関係機関と積極的に信頼関係を構築することができる。	○関係機関との連携・協働体制を支え、開かれた学校づくりに取り組むことができる。	○関係機関との連携・協働体制を構築し、開かれた学校づくりを推進することができる。		
管理体制に関して					
○危機管理や情報管理等に関する必要な知識を身に付けることができる。	○危機管理や情報管理等に関して、専門性を生かした意見及び助言ができる。	○危機管理や情報管理等に関して、実情に応じて工夫改善を提案することができる。	○危機管理や情報管理等に関して、学校全体へ働きかけ、管理体制の適正化に貢献することができる。		
学校事務職員間における連携・協働	<p>○連携組織における自身の役割を理解し、あらゆる機会を通して積極的に学び、高め合いながら職務を遂行することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他者の取組等から主体的に学び、自校の実践に生かしたり工夫したりすることができる。 ○自校での実践や自身が学んだことを分かりやすく他者へ伝え、連携組織の取組に生かすことができる。 ○各校での実践や連携組織の取組について、本質を的確にとらえ、その情報や工夫を整理し、形に示して、連携組織の標準化及び標準化など業務の改善や質の向上に繋げることができる。 ○各校での実践や連携組織の取組を踏まえ、全市の標準化及び標準化等全市的視点で業務を遂行することができる。 <p>○連携組織の一員として、業務改善に関する提案等に積極的に取り組むことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○連携組織の一員として、リーダーの補佐や若年層の支援に取り組むことができる。 ○円滑な組織運営に努め、メンバーが力を発揮できる環境づくりや支援に取り組むことができる。 ○組織の充実・発展に努め、メンバーが力を発揮できる環境づくりやメンバー個々の力を高められるように指導・助言を行うことができる。 				